

地域で支え合うしくみづくり ～認知症サポーター・キャラバン・メイトのチカラ～



羽後町地域包括支援センター
社会福祉士 伊藤和恵

羽後町について

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
総人口(人)	17,165	16,983	16,725	16,436
年少人口(0～14歳) 構成比(%)	1,783 10.4	1,716 10.1	1,636 9.8	1,597 9.7
生産年齢人口(15～64歳) 構成比(%)	10,085 58.8	9,927 58.5	9,709 58.1	9,402 57.2
高齢者人口(65歳以上) 構成比(%)	5,297 30.9	5,340 31.4	5,380 32.2	5,437 33.1

前期後期高齢者の割合は、概ね前期高齢者が4割弱、後期高齢者が6割強
75歳以上の高齢者夫婦世帯は160世帯
75歳以上の高齢者単身世帯267世帯

羽後町について

	平成27年	平成28年
総人口(人)	16,436	15,788
高齢者人口(65歳以上) 構成比(%)	5,437 33	5,487 34.8

羽後町は秋田県南部に位置する町で、キャッチフレーズは「緑と踊りと雪の町」。

県内屈指の豪雪地帯であり、山間部の積雪量は2メートルを超えることもしばしば。

主要産業は農業。米はあきたこまちの生産量が多く、西又葵の美少女イラストがJAうごの米袋に使用され、爆発的に売れ、現地バスツアーも組まれるほどの話題となる。

また、西馬音内盆踊りは日本三大盆踊りと称され、毎年10万人以上の観光客が訪れる。



羽後町認知症にやさしいネットワーク形成事業 H20～
認知症地域支援体制構築等推進事業モデル地域 H22～
認知症地域支援推進員 H28～

認知症予防

- 若竹元気くらぶ H20～
- うご脳若返り教室 H22～

早期発見・早期治療

- ファイブ・コグ検査 H20～
- もの忘れチェック機器 H21～
- 早期の段階から診断・相談・対応へ

悪化防止

- 学習療法 H22～
- 認知症ケアに関する研修会の実施 H21～

適切な 支え

- 家族介護者教室やケアスタッフ研修など
在宅の介護を支えるための研修 H18～
- キャラバン・ラジオ屋など地域の力・支える
力の強化(うごまちよりそいネットワー
ク模擬訓練、サロン活動など) H22～
- 連携調整支援機関としての地域包括支
援センター
- 多職種連携専門職チームの養成(H28
は認知症ライフサポート研修)

認知症の 理解

- キャラバン・メイト養成研修 H21～
- 認知症サポーター養成研修 H20～
- 地域資源マップ作成・配布 H22～
- 当事者も参加する活動への支援
- 認知症カフェでゆるやかな学びの場の提
供 H28～

今回の羽後町の報告は・・・

地域で支え合うしくみづくり ～認知症サポーター・キャラバン・メイトのチカラ～



町から求められている推進員の役割 発注伝票は以下のとおりです

関係機関、医療機関、
インフォーマルサービ
スとの連携の強化

認知症サポーターの
養成、スキルアップ、
キャラバン・メイト研修

「気付いてつなげる地
域の力」を高めるべく、
SOSよりそいネットワ
ーク事業等の充実

認知症の社会資源
マップをいかして、認
知症ケアパスを形に
せよ

認知症サポーター養成講座開催状況

3名の地域包括支援センター職員が、キャラバン・メイトとして平成20年度春から活動スタートさせる。



民生児童委員、教育委員会、社会福祉協議会、JA女性部、老人クラブの総会にて認知症サポーター養成講座開催への協力を呼びかける。

認知症サポーター養成講座開催状況

なじみの関係機関へのPRにより、認知症サポーターが養成できたが・・・1年で先細り感あり。



平成21年度から「キャラバン・メイト養成をわが町で！」

福祉関係者、民生児童委員、商工会、学校、消防、銀行、JA、タクシー、警察、郵便局など多方面の機関を対象にキャラバン・メイト養成を行う。

結果、メイトを窓口としてさまざまな団体にサポーター養成講座を開催可能となる

羽後町の認知症サポーター・キャラバンメイト養成状況 (平成28年9月30日現在)

	羽後町
総人口	16,368
キャラバン・メイト	316
サポーター	2,636
総人口に占める割合	16.10%
ひとり当たり担当高齢者	2.1

うごまちキャラバン・メイト認知症サ ポーター協会（住民団体）ができるまで

平成20年3月
横浜市視察

- 住民キャラバン・メイト
- ファイブ・コグ検査

平成20年度
認知症サ
ポーター養
成講座を関
係機関に実
施

平成21年6月
キャラバン・メ
イトを養成
同10月 住民
メイトのつど
いを開催

平成22年
12月に協
会設立へ

利用しない手はありません

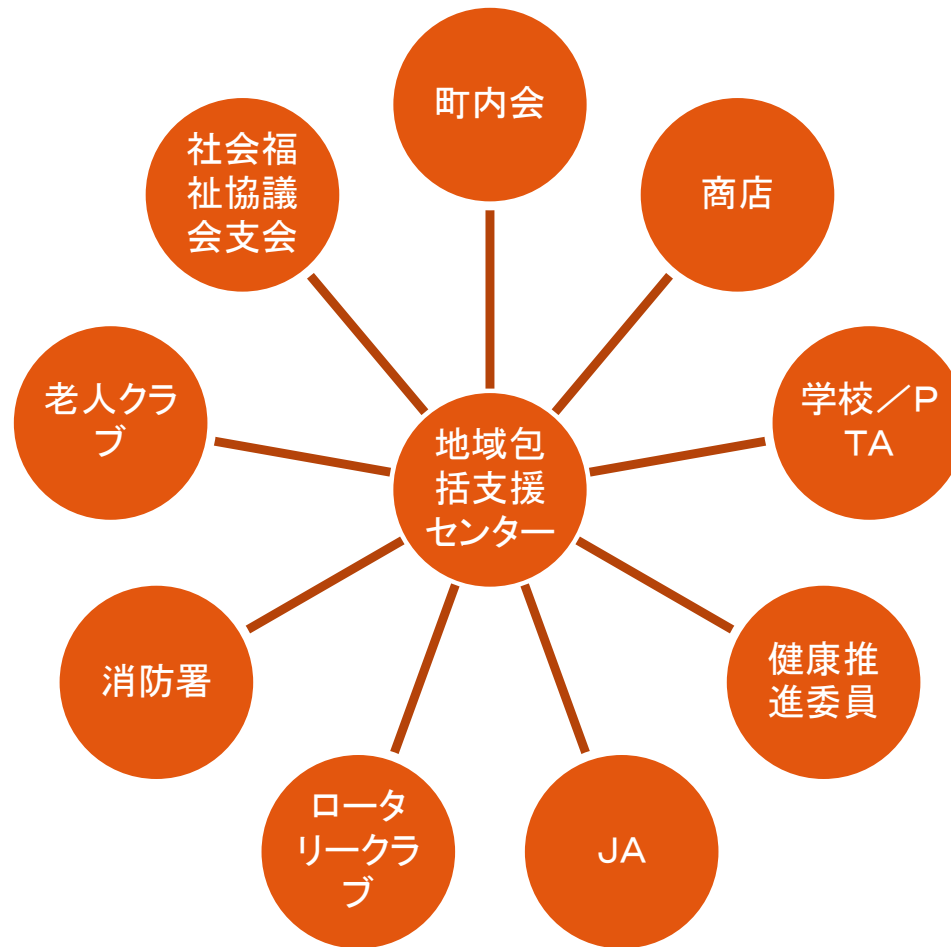
- 認知症サポーター養成講座
- キャラバン・メイト養成研修



地域包括支援センターは



キャラバン・メイト養成、 認知症サポーター養成を実施するにつれて



羽後町唯一のタクシー会社

(専務がキャラバン・メイト 全社員がサポーター)

社員一人一人が認知症サポーターとしての視点をもったことで、「最近同じ買い物をしていくひとり暮らしのばあちゃんがいる」

「年寄りじゃないけど、心配な男性がいる」など地域包括支援センターに情報を寄せてくれる存在に。



西馬音内商店会

事務局長がキャラバン・メイト

- 羽後町の中心地の商店会のみなさんが認知症サポーターに(約50店舗)
- お年寄りが頼りにできる商店ばかり
薬局、魚屋、八百屋、電気屋、食堂、時計屋、クリーニング店、理美容室・・・

ちなみに

西馬音内商店会の事務局長は民生児童委員

矢野洋品店のご主人は若竹元気くらぶオリジナル体操の音楽制作担当

西馬音内商店会



理美容協会

協会の役員がキャラバン・メイト

- 住民キャラバン・メイトの高橋さんは理美容協会の役員

「理美容協会の研修の時に認知症サポーター養成講座を全員に受講させよう」と地域包括支援センターに提案

さらに！！

ご自分の店の前にオレンジくるくる（オレンジポール）を設置

町の話題になりました。

理美容協会研修会



羽後高校

教員・養護教諭がキャラバン・メイト
のちボランティア部の高校生もキャラバン・メイト

- 地域包括支援センターの下手な紙芝居にも熱心に見入ってくれました
- ボランティア部から
「ぼくたちも紙芝居つくりました」をきっかけに
認知症サポーター養成講座協力隊員に！

この活動がきっかけで全国でもめずらしい(当時)高校生キャラバン・メイトに・・・。

羽後高校ボランティア部



キャラバン・メイトのつどいを かさねてきました



平成22年10月20日 キャラバン・メイトのつどい

・ 住民メイト 報告 抜粋

メイトやサポーター同士を結び付ける場所がある
といいと思った。産直ふれあい市場で認知症に
ついて啓発活動をし、チャリティバザーを若竹元
気くらぶのみなさんとやってきた。その市場がな
くなるということで、西馬音内商店街で空き店舗
はないか、・・・とさがした。ついにその場所もみ
つかった。近日運営委員会をひらき、メイトやサ
ポーター協会を設立したい。

住民メイトの夢のイメージ化



平成22年12月14日 ついに！うごまちキャラバン・メイト・ 認知症サポーター協会設立



協会の役員をご紹介（設立時）

- 会長 元保健師 仏具屋
- 副会長 若竹元気くらぶ代表
- 副会長 民生児童委員
- 事務局長 西馬音内商店会
- 会計 若竹元気くらぶ
- 幹事

羽後高校ボランティア部顧問 ケアセンターみわ管理者
うご脳若返り教室学習サポーター 公民館職員
健康推進委員

- 監事 自転車屋 元郵便局員

**※太字以外はすべて住民キャラバン・メイト
要差し替え**

住民キャラバン・メイトの力で キャラバン・ラジオ屋誕生！



キャラバン・火曜サロン

サロン
バザー
(一般OK)

研修会
(会員むけ)

総合相談日
(認知症の人
とその家族)

役員会
(役員)

うごまちSOSよりそいネットワーク

- 当初地域包括支援センターが主催し、会議を開催し、ネットワーク構築を、と考えていた。
- 生活環境課で防災無線を利用した行方不明者捜索ネットワークがすでに確立しており、このネットワークに地域包括支援センターが参入していく路線に変更
- しかし、平成25年度に新しいうごきが、住民から……

会員の自己研鑽と行動につなげる研修

- ①「認知症の入り口にいる人とはどんな人？」
- ②「認知症の人への対応」もし徘徊している人を見かけたら、私たちはどうしたらいいの？



地域包括支援センターでできなかった徘徊SOS模擬訓練を私たちがやってみない？

住民キャラバン・メイト主催の SOS見守りネットワーク模擬訓練

- 平成25年度のうごまちキャラバン・メイト認知症サポーター協会総会にて今年度の新規事業として挙げられる。
- 協力機関として
羽後町、羽後町地域包括支援センター、社会福祉協議会、町教育委員会、警察・消防機関に依頼あり。

うごまちSOSよりそいネットワーク 模擬訓練(平成25年度～)



訓練の様子



新しい動きも！



家族介護者教室

家族介護経験者、キャラバン・メイト、認知症の人の家族会（佐藤敦子氏）などを講師に、現在家族介護を行っている住民を対象とし、年1回実施。

「介護しなければならないので行きたくても参加できない！」の声にこたえて、「短期入所利用できる家族介護者教室」を平成27年度から特別養護老人ホームの協力を得て企画。

その他の認知症の人と その家族を支援する事業

- 認知症の人とその家族を支える地域の人材、サービス拠点についての情報を掲載した地域資源マップの作成・普及、更新（H22～）
- 安心・安全なまちづくりパトロール隊と地域包括支援センターの定期的な情報交換（月1回）
（一人暮らし、二人暮らし等約340世帯）

医療・介護等の有機的な連携の推進

～ 認知症ライフサポート研修～



推進員としての活動の課題

- 推進員となる前から、地域包括支援センターの職員として積み上げてきた資源を十分にいかしているのか
- 認知症の人やその家族の声を十分に聞き取り、施策に反映させているのか、
- 行政をはじめ関係機関との連携は本当にとれているのか、ただの自己満足ではないのか

今後の活動・取組について

- 認知症サポーター、キャラバン・メイトとなった住民や専門職の力はこれまでの報告で伝えたように「点から面へ」変化している。面と面とをさらにつなげていくアイディアは、今後もかかわっているみなさんとともに企画実施していきたい。
- ゼロからのスタート、ではなかった。そこにあるもの、地域で育まれていたもの、をつなげることで想定以上の新たな地域の力となっていく。

認知症地域支援推進員として めざすところは

認知症の発症予防
認知症の早期発見
認知症の重症化を防ぐ



認知症の診断を受けた人だけでなく

「誰もがいきいきと安心して暮らせる
そんな羽後町にしたい！」

うごくまち 羽後町！！

これからも

地域みなさまと共に歩んでいきます

それぞれの持ち味を生かして

それぞれの世代の強みを生かして

「 うごくまち 羽後町！ 」

ご静聴ありがとうございました。

